

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3回(仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会				
事務局 (担当課)		農政課 電話042-769-9233(直通)				
開催日時		平成26年9月16日(火) 午後1時30分~午後3時30分				
開催場所		相模原市立産業会館 4階国際商談室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	-				
	事務局	8人(経済部長、農政課長 他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1)(仮称)新・都市農業振興ビジョンの基本理念・基本方針等について (2)新規就農者の現状について 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

大木委員長の進行により開会した。

なお、傍聴人の確認を行ったところ、傍聴者が2名いたため、入室が承認された。

2 議題（ は委員の発言、 は事務局の発言）

大木委員長の進行により議事に入った。

(1)(仮称)新・都市農業振興ビジョンの基本理念・基本方針等について

事務局から議題に入る前に、前回の現地視察の結果について報告を行った。

その後、議題(1)(仮称)新・都市農業振興ビジョンの基本理念・基本方針等のたたき台について説明を行った。

中心的な経営体とは、どのようなことを示しているのか。

5年後の経営改善計画を市で認定した認定農業者等を中心的な経営体と位置づけている。

72万人の大消費地とあるが、市民のみを対象としているのか。

基本理念については、「多様な担い手が72万人の大消費地を活かした農業経営ができる」としているが、市外に販売できる生産量があるのか、また、どの範囲を対象とするか等を含めて、ご検討いただくためのたたき台として資料を作成しているので、ご議論いただきたい。

市内だけでなく市外にも販売できるのが望ましいが、販売農家数と農地面積から考えると生産量が足りていないのが現状である。農協の農産物直売所においても、現在は端境期でもあり、午前中で地場産野菜がなくなることもある。

農産物直売所の運営に際しては、継続的に野菜を供給できるような作付計画の普及や、新たな担い手を育成していく「人づくり」をすることが喫緊の課題と考えている。

津久井地域では、地場産の牛乳、大豆、小麦粉等の加工品を作っているが、酪農に関しては、担い手の減少や資材の高騰等、厳しい営農状況である。

農産物の供給量が少ないのが問題であると理解した上で、基本理念を検討していくべきである。

相模原に限らず、東京、神奈川では、どこでも自給率は低い。野菜、畜産物の中で、どの分野の生産額を向上させるかを具体的に示す必要があると感じる。また、市内における地場産の認知度を高めるために、例えば、学校給食ともっと密接に連携し、地場産の野菜や加工品を提供する等の取組みも必要である。

農業の多面的機能の活用により、「市民が心豊かな暮らしができる」としていることには賛同する。市民に農業を理解してもらうなかで、農家としては、心豊かな暮らしができる場を提供することを課題として取り組んでいきたいと考えている。

藤野地域は、都心からのアクセスが良いので、都内からの観光客が多い。「72万人」の大消費地をターゲットにするのであれば、もっと「相模原産」としての地元意識があれば、一体感を持つことができると感じている。

農業生産を考えていく上で、その背景に「豊かな農村コミュニティ」がないと成り立たない。市内に住みたい人を増やすことが必要で、中山間地域でどのように「農村」を維持していくのか、都市農業でも新たなコミュニティをどのように作っていくかを考えるべき。

この基本理念では、「農村」をどうするのが見えてこないし、農業を成長産業にするためにどのような取組みをするべきかを検討することは簡単なことではない。

市街地で農地の規模拡大をすることは現実的ではない。立地ごとに取組みの特色を出すことが必要ではないか。

消費者は、安くて品質の良いもので、かつ、安全で新鮮なものがほしいと考えている。また、「さがみはらのめぐみ」の認知度が低く、地場産の野菜等が学校給食に出されていても、周知が不十分であり、食べている子ども達に理解されていないのが現状である。

「農村」をどう捉えていくかの基本スタンスを示す必要があるのではないか。また、力強い農業を推進するためには、生産力を向上させるための具体的な取組みが必要である。

ビジョンの方向性の1つとして、戦略的な「相模原の農業ブランド」の確立や都市農業の優位性を活かした相模原らしい特色ある農産物の生産振興などが重要であると考えている。

(2) 新規就農者の現状について

「よしみ農園」代表 吉見敦司氏（トマト栽培農家）が、営農に関する現状と課題や今後に向けた課題について、プレゼンテーションを行った。

主な発表内容について

ア 相模原市に就農した理由と就農後の状況

- ・神奈川県内で夏にトマトを栽培できる場所として、標高が高い津久井地域に就農した。
- ・新規就農直後は、販路がなかったので、いろいろと営業活動を行い、時間と労力がかかったが、1年目からある程度の販路を確保できた。消費地が隣接していることから、農業経営には、有利な立地条件だと感じている。
- ・季節ごとに標高の異なる3つの地域での栽培に取り組んでいる。

イ 営農に関する課題

技術

野菜の専業農家が少ない地域だったので、周りに技術的な指導をしてくれる人がいなかった。また、県農業技術センターの支援体制も改善が必要だと感じている。

販路

新規就農者の中では、営業活動に時間を割くことができず、有利な販売先との取引ができないことや、物流網がなく、遠隔地でも自ら出荷していることなどが課題となっている。

人手

季節的に仕事の増減があるので、常時の雇用が難しい。

ウ 課題克服に向けた取組み

- ・コストダウンのため、農家同士が農地や機械などを共有していく取組みを行っている。また、生産者グループを作って、取引先との物流ネットワークの構築にも取り組んでいる。

エ 農業施策に対する期待や意見

- ・新規就農するための入り口で、農地、農家での研修、住まい等に関する情報を集約して支援してほしい。また、就農前の農家等への研修制度の創設や、新規就農者の組織化の促進など、効果的な支援をしてほしい。

- ・学校農園は、地域の農家が深く関わった取組みをしているので、学校や行政が連携して、食育事業としての体制づくりを確立してほしい。

- ・農業体験や教育分野・福祉分野との連携など、様々な形で市民と交流できる場を増やしてほしい。

- ・農家と飲食店が情報を共有し、商談会を行うなどの機会を提供してほしい。

3 その他

事務局から次回日程等に関する事務連絡を行った。

- ・平成26年10月15日(水) 午後2時～午後4時

4 閉会

第3回(仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会委員名簿 (50音順・敬称略)				
	所属団体等	氏名	備考	出欠席
1	相模原市認定農業者連絡会 副会長	天野 國彦		出席
2	公募委員	池田 珠三子		出席
3	麻布大学獣医学部 教授	大木 茂	委員長	出席
4	相模原市農業協同組合 理事	小俣 シゲ子	副委員長	出席
5	公募委員	上島 都子		欠席
6	一般財団法人農村開発企画委員会 特任研究員	楠本 侑司		出席
7	株式会社藤野倶楽部 代表取締役	桑原 敏勝		出席
8	津久井郡農業協同組合 専務理事	坂間 陸二		出席
9	パルシステム生活協同組合連合会 産直開発課長	高橋 英明		出席
10	相模原市農業委員会 副会長	高橋 三行		出席
11	相模原市農業協同組合 常務理事	長谷川 辰夫		出席